

1	言葉
言葉の力をつけよう（音読2年②） 〔方言で書かれた詩「永訣の朝」〕	
名前	解説

★知っておきたい言葉の知識

アメン ドードードーデ フリヨッタケンガ
イカレンヤッタモンニヤー



この文を声に出してスラスラと読むことができましたか。意味はどうでしょう。思わず笑みがこぼれる人もいたかもしれません。

では、（あめゆじゆ とてちて けんじや）はいかがでしたか。

私たちの住む日本は、細長い地形であり、それぞれの土地の気候や自然には特徴があります。その特徴は、生活の仕方の違いであり、使う言葉の違いとなつて表れました。よその地方の人との交流のない頃は、その違いがより色濃く残り、生活に密着した言葉になったのです。

しかし、交通機関の発達はもちろん、ラジオやテレビの普及により、共通語を話せることが普通になってきました。それにともなつて、方言を話せる人が少なくなっている傾向があります。

方言と共通語のそれぞれのよさを理解して、使い分けていくことが大切ではないでしょうか。

身につけると…

方言と共通語、それぞれの良さがわかります。
言語生活を豊かにすることができます。

読んでみよう

《解説》

詩の中に描かれているのは互いの幸せを思いやる兄妹の詩です。妹であるとし子は、明日をも知れぬ命です。苦しい息の下で、兄の賢治に外に降るみぞれをねだります。

《「永訣の朝」の続き》

蒼鉛〔そうえん〕いろの暗い雲から
みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子

死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを

おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから

（あめゆじゆ とてちて けんじや）注1

はげしいはげしい熱やあえぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ

銀河や太陽、気圏〔きけん〕などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……

……ふたきれのみかげせきさいに

みぞれはさびしくたまつてゐる

わたくしはそのうへにあぶなくたち

雪と水とのまつしろな二相系をたち

すきとほるつめたい雫〔しずく〕にみちた

このつややかな松のえだから

わたくしのやさしいもうとの

さいごのたべものをもらつていかう

わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ

みなれたちやわんのこの藍〔あい〕のもやうにも

もうけふおまへはわかれてしまふ

（Ora Orade Shitori egumo）注2

あああのとざされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに

やさしくあおじろく燃えてゐる

わたくしのけなげないもうとよ

この雪はどこをえらばうにも

あんまりどこもまつしろなのだ

あんなおそろしいみだれたそらから

このうつくしい雪がきたのだ

（うまれでくるたて

こんどはこたにわりやのごとばかりで

くるしまなあよにうまれてくる）注3

おまへがたべるこのふたわんのゆきに

わたくしはいまころからいのる

どうかこれが兜卒〔とそつ〕の天の食〔じき〕に変わつて

おまへとみんなとに聖い資糧〔かて〕をもらすやうに

わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

注1 雨雪（みぞれのこと）をとつてきてください

注2 わたしはわたしでひとり行きます

注3 今度生まれてくるときは

こんなに自分のことばかりで

苦しまないように生まれてきます